

第4回 樋口恵子先生 「言葉の魔術師と呼ばれて」

医療経営管理専攻1年

h-MBA コース M1

管理栄養士 13S2001

赤尾美代子

昨日の講義で、部屋に入りテレビで拝見したことのあった樋口先生のお顔を見た瞬間、「色白でキレイ！！」というのが直感だった。さらにお歳を聞いて、とても驚いた。

先生の小学校時代のお話は、恥ずかしながら今の私と同じ。気後れしたり失敗したらどうしよう、人とずれたことを言ってしまったらどうしよう、と心配ばかりしていまい、自らすすんでどんどん話せない。しかし、意外と勇気をもっていくと、我ながらいい質問だったみたいだと思ったり、意外に勝手に口がスラスラ動いた、ということもある。樋口先生の失敗を恐れず、「その機会を自分でとらえていくことが大切」そして「トレーニングをしないと退化していく」ことをしっかり頭にたたきつけておこうと思う。

しかし先生はそのような小学校時代を過ごしたとは思えないくらい、流暢にとっても聴きとりやすくわかりやすくお話をされていらっしまった。

人前で話せない、という克服に関して最近気づいたのは、やはり知識やネタを豊富にもっていないなければ、長く人前でお話することはできないということ、そして題材をいかに豊富なボキャブラリーをもち、表現していくかということ。先生も、小学校で「わしひめ」という題材があり、そしてそれを自分の言葉で相手に伝える技があり、度胸があり、できたのだと思う。

私も言葉を武器にできる人間になりたい。先生のお話をきいて、自分にできそうだったことは、相手に関心を向け相手に興味をもち、聞き上手になる、イイと思った言葉を書き留めておく（オチも含め）こと。

最後の先生の介護についてのお考えが、私には非常に新鮮だった。「同時多発介護」という言葉を造りあげた先生に頭が下がる。まさに時代に対応した真実を表す言葉である。

私の大学院での研究テーマは、地域と人とのコミュニケーションがとれる場所を作ることがまだなんとなくであるが考えている。「家族」という定義を広げ、血縁がなくても支え合えるような人間関係の築きが必要という先生のお言葉も後押しとなり、自信をもって前にすすめられそうだ。

言葉を大切にしてくられた樋口先生には、今のメール社会についてのお考えも伺ってみたかった。

